

医療コミュニケーション学・演習

Medical Communication

薬：F2-01402MY

医療科目 4年／前・後期 1単位 必修科目

科目責任者 常住 亜衣子(医療コミュニケーション学研究室)

■教育目的

コミュニケーション能力は薬学修得、薬剤師の職能発揮に必須の能力である。本授業は、医療においてコミュニケーションが果たす役割を理解し、薬剤師が患者や他の医療専門職と良好なコミュニケーションをとる方法の修得を目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-①、④】

■学習到達目標

1. 的確な情報伝達により、患者との間に人間関係を構築できる(知識、技能、態度)
2. 対人関係に関わる心理的要因、自己・他己への理解を深め、患者の心理等に配慮できる(知識、技能、態度)
3. コミュニケーションスキルを活用し、円滑な双方向型コミュニケーションがとれる(知識、技能、態度)
4. 良好なコミュニケーションを通じ、患者の意思決定、QOL 向上を支援できる(知識、技能、態度)
5. 多職種連携の重要性を理解し、医療専門職と協力して質の高い医療の提供に貢献できる(知識、技能、態度)

■準備学習（予習・復習）

予習：教科書、配布資料等の精読、医療面接演習の準備(60分～) 復習：授業内容の確認(60分～)

■授業形態

グループワーク、実習・フィールドワーク、双方向型授業（ICT活用）、講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1	医療コミュニケーションの基礎	医療コミュニケーションとは何か	A(3)-①-1,2
2	自分を知る	コミュニケーションの主体である自己、医療専門職としての自己を理解する	A(3)-①-6
3	他者との関わり	対人認知、対人関係に影響を及ぼす心理的要因	A(1)-①-4
4	患者の心理を知る	コミュニケーションの相手である患者を理解する	A(3)-①-3,5,A(3)-②-1
5	傾聴のスキル	患者の話を聴く態度とスキル	A(3)-①-5,7
6	質問のスキル	情報収集、双方向型コミュニケーションのためのスキル	A(3)-①-5,7
7	情報共有のスキル	情報共有のためのスキル、ヘルスリテラシー	A(3)-①-8,9
8	共感	共感、共感的態度 講演：患者講師による病気体験	A(3)-①-5,6
9	ナラティブコミュニケーション	ナラティブ・ベイスト・メディスン、EBM との融合	A(2)-③-1、A(3)-①-5～9、A(3)-②-2
10	行動変容を促すコミュニケーション	健康行動理論、ヘルスリテラシーと健康の関連 演習：健康行動理論に基づく患者支援	A(3)-①-5～9 A(3)-②-2
11	悪い知らせを伝える際のコミュニケーション	患者の心情に配慮したコミュニケーション 演習：SPIKES プロトコル	A(3)-①-5～9 A(3)-②-2
12	リスクコミュニケーション	リスク認知・受容、リスクコミュニケーションの方略	A(3)-①-5～9 A(3)-②-2
13	多職種連携のためのコミュニケーション	チームビルディング、アサーティブコミュニケーション 演習：DESC 法	A(3)-①-8,9 A(4)-①-4,5
14-15	医療面接演習	模擬患者との医療面接	A(3)-①-5～9 A(3)-②-2

■授業分担者

常住亜衣子(No.1～15)、外部講師(No.8)

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：授業内で医療面接演習へのフィードバックを行う。

成績評価方法：筆記試験(50%)、ループリック評価による医療面接演習(50%)

■教科書

日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会「ファーマシューティカルコミュニケーション」(南山堂)

■参考書

石川ひろの「保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門」(大修館書店)